

授業科目	CC2G37	1 単位	選択	演習	2学年後期	担当 教員	教授 櫻井 ますみ
	環境指導法						

授業の概要	① 子どもの発達における環境の意義や役割について理解する。 ② 保育所や幼稚園において、どのように環境との関わりを援助すれば、豊かな体験を幼児が持つことができるかを学ぶ。 ③ 子どもにとって、望ましい保育環境を構想することができる。
-------	--

到達目標	到達目標	学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
到達目標	① 保育内容「環境」における保育のねらいと内容を理解する。		○		○	○	○	○	◎	○
	② 子どもが成長していく上で、身近な環境との関わりや意義や役割について理解する。		○		○	○	○	○	◎	○
	③ 周囲の環境との出会いによって、子どもの好奇心や探究心が育つよう援助方法を構想できる。		○		○	○	○	○	◎	○

凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照

	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標	復 習
1	オリエンテーション	シラバスを読んでおく	授業の進め方、課題の提出、評価方法等について及び保育における環境についての理解を深める。	資料を再読し、この教科で学びたいことを考える。
2	幼児教育の基本と目標	教科書 P. 1～P. 9 を読んでおく。	幼稚園教育要領と保育所保育指針の環境と他の領域との関係について理解を深める。	環境指導法の内容には、どんな項目があったか列挙する。
3	人間の生活と環境	教科書 P. 12～P. 18を読んでおく。	環境の主体と要素、人間の生活と環境との相互作用について及び幼稚園教育要領・保育所保育指針の「ねらい」と「内容」についての理解を深める。	幼稚園教育要領と保育所保育指針の違いを考える。
4	子どもと園の環境	教科書 P. 20～P. 44 を読んでおく。	園において子どもを主体とする物的環境・人的環境・自然・社会環境の関わりについて理解を深める。	環境とは何かについてまとめる。
5	環境と子どもの活動	教科書 P. 29～P. 33 を読んでおく。	身近な環境として自然や生き物との関わりと配慮について理解を深める。生物の観察・周囲の自然環境の観察を通して感受性と観察力を養い、多様性・生態・生命等への理解を深める。	色々な子どもの活動を列挙してみる。
6	子どもと環境の関わり	教科書 P. 36～P. 44 を読んでおく。	子どもの活動（探索、模倣）と保育者の援助と配慮についての理解を深める。	子どもの活動の発達段階を並べてみよう。
7	幼児と環境との関わり	教科書 P. 44～P. 54 を読んでおく。	幼児の発達を考慮し、自然や遊具との関わりを通して、保育者の援助と配慮についての理解を深める。	保育者の意図を考える。
8	幼児と環境との関わり	教科書 P. 55～P. 64 を読んでおく。	幼児の発達を考慮し、園内の遊具との関わり、飼育栽培について、保育者の援助と配慮についての理解を深める。物の扱いを通して子どもの思考力、積極性等を養う方法への理解を深める。	保育者の意図を考える。
9	環境をつくる	教科書 P. 132～P. 148 を読んでおく	領域環境の指導計画と、保育方法について考える。	指導案とは何か、何のために書くのか明確にする。
10	指導案作成	子どもの年齢を考慮し、制作の指導案の構想を練る	模擬保育のために年齢を考慮し、制作を主活動とする指導案の作成	指導案の完成を確認する。

1 1	領域環境の変遷	教科書 P.107～ P.112 を読んでおく。	明治時代から太平洋戦争終結、現在に至るまでの保育内容について学ぶ。幼小の接続について学ぶ。	幼小接続用のカリキュラムの実際を調べる。
1 2	指導案作成	子どもの年齢を考慮し、生物との関わりの指導案の構想を練る	模擬保育のための生物の触れ合いや周囲の自然観察を主活動とする指導案の作成	指導案の完成を確認する。
1 3	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	「環境を通して行う教育」についてのプレゼンテーションを考える。	友達のプレゼンテーションについての意見をまとめる
1 4	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	自然環境・季節の移り変わり等の環境への視野を広げる。また子どもの関心・意欲を高めるために文字や数がある環境についての理解を深める。	プレゼンテーションについて評価する
1 5	今までの授業の総復習とまとめ	教科書やノートを確認し、授業内容をまとめておく。	保育内容「環境」の現代的課題と環境の評価方法について、自分の理想の保育室と環境設定を考える。	今までの授業内容を全てまとめておく。
成績 評価	受講態度 (20%)、発表・課題提出 (30%)、テスト(50%) 合計100%			
教員 から の コ メ ン ト	<p>子どもたちの生活や遊びにとって望ましい保育環境は何か、また保育環境をどう構成すれば、子どもたちが興味・関心を持って、発展的に遊べるようになるのかを考察します。</p> <p>保育実習や教育実習においては指導案を作成しなければなりません、この授業で指導案を構想するのも役立つ授業ですので、子どもたちと楽しく遊ぶ環境構成を普段から考えるようにしてください。</p> <p>季節により天候により、遊びの演習も入れていきます。学内外の環境を知るために、散歩に行くことがありますので、シラバス通りにはいかないこともあります。</p>			
教科 書	書名 保育内容環境 著者 岡 健 発行所 建帛社	推薦 図書	書名 平成29年告示幼稚園教育要領保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> 著者 編集 田島美徳 発行所 株式会社チャイルド本社 書名 環境構成 編集 岡上直子 発行所 ひかりのくに	